

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【福岡県】

学校名【大牟田市立天領小学校】

1 実践テーマ	(I)・(II)・(III)・(IV)・(V) (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	第6学年 84名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ） ② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	「オリンピック・パラリンピック」の歴史を知るとともに、自分が気になった競技や選手のことを詳しく調べ、同学年の子どもたちに自分の調べた事を発表することができる。また、それらの活動を通して、夏に行われる東京オリンピック・パラリンピックへの関心を高めるとともに、選手たちの生き方などについても共感する気持ちを持つことができる。
5 取組内容	<p>【課題設定の場】</p> <p>○ 歴代のオリンピック・パラリンピックの映像を見せて、たくさんの競技があることを知り、東京オリンピック・パラリンピックではさらに新たな競技が追加されることを説明し、オリンピック・パラリンピックについての興味・関心を持たせる。 ※映像は、「I'm POSSIBLE」で掲載されているものを見せた。</p> <p>【調べる段階】</p> <p>○ オリンピック・パラリンピックの歴史や価値を一斉学習で調べ学び、オリパラの存在意義を確かめた上で、自分の興味のある競技や選手について、本やタブレットを使って調べた。</p> <p>○ 調べたことを、パワーポイントを使って、絵や写真、表なども入れながら個人でまとめた。</p> <p>【深める段階】</p> <p>○ パワーポイントにまとめた競技や選手のことを、同じグループの友達に発表をし、質問やアドバイスを受け、分からなかったところや調べ足りなかつたことをさらに調べた。</p>

	<p>【まとめる段階】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ グループごとに意見をまとめ、個人で新聞という形でまとめ、各学級単位で発表を行った。 <div style="display: flex; align-items: center;">   <div style="margin-left: 20px;"> <p>競技の説明や注目選手に目をつけています。</p> </div> </div>
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもたちは今までパラアスリートとの交流などの経験があるが、オリンピック・パラリンピックの意味や価値を知ることができていなかったため、今回歴史を学ぶことで、新たにオリンピック・パラリンピックの価値について学ぶことができた。 ○ 一つの競技や選手のことを詳しく知ることで、夏に行われるオリンピック・パラリンピックへの関心も高めることができ、選手の生き方から自分の生き方へと置き換えて考えることができた。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 視覚的効果をねらうために、導入の段階でパラリンピックの映像を見せることによって、子どもたちのパラリンピックへの興味・関心が高くなり、調べたいという意欲を持つことができた。 ○ 一人一台タブレットが導入されたことにより、調べ学習もしやすくなり、子どもたち同士の情報交換もすることができた。調べた段階で、他の子どもに発表するときもタブレットを使って発表できたため、全ての子どもたちが見やすく、アドバイスを受けたことを簡単に修正することができた。
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ○ このような時期での取組であったため、発表が学級単位で終わってしまったこと。この取組を学年単位で交流したり、学校全体に広めたりすることで、天領小学校全体に「オリンピック・パラリンピック」の興味・関心を広めることができたと考える。
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ○ 6年生が作った新聞をオリパラロードに掲示することで、天領小学校の子どもたちも、選手や競技について興味・関心を持つことができる。 ○ 今年度開発した本教材を6年生の年間指導計画に位置づけ、来年度も付加・修正して取り組むようにし、今後も継続的・発展的な学習へつなげていきたい。また、低学年や高学年の学習にも広げていき、系統性を持って進めていきたい。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【福岡県】

学校名【大牟田市立天領小学校】

1 実践テーマ	I · II · III · IV · V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	第6学年 84名 音楽クラブ 26名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 () ③ その他 (クラブ活動) (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 (ジョージアの選手を応援しよう)
4 目標 (ねらい)	大牟田市のホストタウンである「ジョージア」の柔道選手を応援しようと、応援メッセージを送ったり、他のジョージアのホストタウンの人達と一緒にジョージアの国歌を歌ったり、インタビューに答えたりして、世界の文化の理解、多様性を尊重する態度を育てることができる。
5 取組内容	<p>【応援メッセージ】</p> <p>○ ジョージアの選手に向けて、応援動画を撮影した。ジョージアと日本の文化のつながりということで、日本の国技である「相撲」の四股を踏む姿を見せたり、選手ががんばれるように笑顔で応援したりした。</p>  <p>【ジョージアの国歌】</p> <p>○ 音楽クラブの子どもたち(4年生から6年生)の24名にジョージアの選手を盛り上げようと、国歌を歌った。オンラインで、ジョージアの国歌についての説明を受けたり、発音を教えてもらったりして、歌の練習をした。</p>

	 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; border-radius: 10px;"> <p>ジョージアのグルジア語は、発音が難しい。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; border-radius: 10px;"> <p>発音になれてくると、楽しく歌えるようになってきた。</p> </div> </div> <p>【取材】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ジョージアの選手たちを応援する活動を通して、感じたことや学んだことの取材を受けた。そこで子どもたちは、「柔道が外国でも強いと知った。国は違っても応援することは大事。」「スポーツは国境をこえる。」という思いを発信した。 
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日本だけでなく、他の国の文化にも親しむことができた。また、オリンピックの柔道でジョージアの選手と日本の選手が戦っている姿を見て、「どっちの選手もがんばれ」という気持ちをもつ子どもがいた。 ○ 取材でも答えたように、「スポーツは国境を越えること」を子どもたちが理解し、日本だけでなく、他の国にも興味を持つことができた。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ○ ジョージアの国歌を歌うとき、楽譜を裏側にジョージアの国旗をつけたファイルを用意することで、子どもたち自身がジョージアの国を大事にしようと思えたことと、ジョージアの選手にも喜んでもらえたこと。
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本来なら、ジョージアの柔道の選手が直接大牟田へ来て、強化練習を行う予定で、交流もできたはずだったが、その選手たちに直接応援ができなかつことが残念であった。
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度のうちに、パラアスリートを招聘して講話をしてもらい、子どもたちとの交流の時間が取れるよう計画を立てている。 ○ オリンピック・パラリンピックムーブメントの2つ目の「マナーやおもてなしの心構えとボランティアの育成」については、まだ授業開発が不十分なため、選手の方々が来校される機会にその心を育成していきたい。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

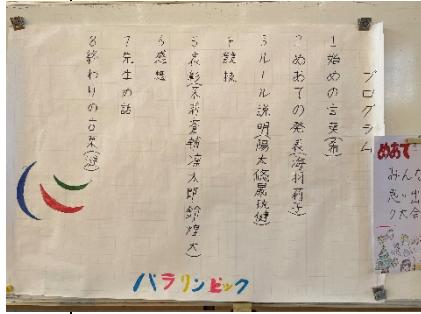
事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化的理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【福岡県】

学校名【大牟田市立天領小学校】

1 実践テーマ	I · II · III · IV · V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	第5学年 85名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (学級活動「パラリンピック大会をしよう」) ② 行事名 () ③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 () ② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	<p>○ パラリンピック競技のゴールボールを体験することで、パラリンピックに関するスポーツの意義や価値について関心を高めるとともに、その理解を深める。</p> <p>○ ゴールボールの体験を通して、スポーツの素晴らしさや困難に負けず目標に向かって努力することの大切さを学ぶ。</p>
5 取組内容	<p>【学級活動】</p> <p>○ 学級活動の話合い活動「パラリンピック大会をしよう」の議題を基に、学級で話合いを行った。「東京パラリンピックを通して、浦田理恵選手が活躍しているのを見て、自分もがんばりたいと思ったことと、パラリンピック競技をあまり体験したことがないので、体験をしてみたいから」という理由で、話合いをし、いくつかの競技の中から「ゴールボール」に決定した。ただの体験だけでなく、学年での「パラリンピック大会」にすることでもっと盛り上がると考え、学級から学年での取組に変更し、実践した。</p> 

	<p>【ゴールボール体験】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 12チームに分かれてゴールボールの体験をし、総当たり戦で1位、2位、3位のチームを決定した。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>見えないことで、ボールを投げることがこんなに難しいんだ。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>ボールをうまく止められるとうれしい。</p> </div> </div> <p>【ふりかえり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもたちは、ゴールボールを体験して、改めて見えていることの大切さを実感したり、この状況の中、ボールを止められる選手たちはすごいなと感じたりすることができた。 ○ また、2月に行われる北京パラリンピックも楽しみだと興味を持つことができた。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div>
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実際にゴールボールを体験することで、ハンディを持つ困難さを実感し、ハンディを持つ方への気持ちを理解することができた。 ○ ゴールボールの体験を通して、スポーツの楽しさを味わうことができたり、チームで協力して声をかけあったりして取り組むことができた。
7実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実際にゴールボールを体験させることで、身をもってスポーツの楽しさを味わうことができたこと。 ○ ただ体験させるのではなく、大会とすることで、子どもたちの意欲をあげたこと。
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他の学習と関連づけて取り組むことにより、スポーツを楽しむだけでなく、パラリンピアンの選手から直接話を聞いたり、道徳で学習したりすることで、今後の生き方について考えることができる。
9来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ○ 来年度も、オリンピアン・パラリンピアンとの交流を通して、スポーツの楽しさを知り、選手の生き方から学んだことを自分の人生に生かせるような取組をしていく。